



下諏訪町の新艇庫「AQUA（アクア）未来」が完成し、4日、記念式典が東赤砂の現地で開かれた。ボート競技など水上スポーツに親しむ従来の拠点機能に加え、災害時に水上輸送できるようにしたり、諏訪湖が一望できるテラスを設けたり、複合的な機能を持たせたのが特徴。青木悟町長は「多くの可能性がある艇庫。多くの人に愛され、活用される場所にしたい」と述べた。

新艇庫は鉄骨造り2階建てで、延べ床面積は約千平方メートル。工期は昨年6月～3月。設計・監理はアルファ設計、施工は六協とサマデイによる特定建設工事共同企業体が担った。総工費は3億4650万円。

収容は135艇。新艇庫敷地は諏訪湖に面しているため、艇の出し入れがこれまでよりしやすくなった。敷地内には足湯も整備。ランニングやウォーキングなど湖畔で運動する人に使ってもらい、疲労回復に役立てる。

式典は新型コロナウイルス感染拡大防止のため人数を制限するなど対策して開き、約60人が出席。施工者や愛称考案者らに感謝状を贈ったほか、町関係者やボート競技者らでテープカットを行い完成を祝った。

青木町長は式典あいさつで「湖畔を健康スポーツゾーンとして整備してきた。新艇庫は一つの通過点。本年度は旧艇庫をトレーニングルームとして改修などし、赤砂から高木までの諏訪湖畔の環境が整う。素晴らしい景観の下、健康を維持できる場所にする」と展望した。式典後はボートの模擬レースがあり、関係者は湖岸に停泊する新型遊覧船「スワコスターマイン号」に乗り様子を見た。岡谷南高校漕艇部の宮坂優里奈さん(16)は「きれいな艇庫で、やる気が出てくる」と話した。

参考資料 6 最大 100 艇収容、川内川にボート競技の新拠点（鹿児島県）



クレーンやウィンチを備え、競技ボート100艇を収容できる川内川交流センター1階の艇庫

=2020年9月10日午前10時47分、鹿児島県薩摩川内市西開間町、城戸康秀撮影

ボート競技が盛んな薩摩川内市に最大100艇のボートが収容できる「川内川交流センター」が完成し、このほど落成式があった。市内では毎年、川内川を利用した市民レガッタなどの大会が開かれており、新たな拠点として期待される。

センターは同市西開間町にあり、鉄骨造り2階建てで1階は艇庫と倉庫。2階には会議室やシャワー室も備え、工事費2億1250万円をかけて市が整備した。競技会用の審判艇のほか、貸し出し用にエイトからシングルスカルまで各種競技用ボート10艇も用意。中心市街地に近い利点を生かし、大学などの合宿や大会の誘致のほか、初心者の受け入れで市民の間で裾野を広げる狙いなどがあるという。1994年設置のレガッタハウス（36艇収容）が近くにあったが、競技人口の増加などで手狭になり、2018年から整備を進めていた。

91年に愛好者や学生らが中心になって川内市漕艇協会（現・薩摩川内市ボート協会）が発足。翌年から川内レガッタを毎年開き、早稲田大と慶応大による早慶レガッタも4年に一度の開催が定着するようになった。地元の川内高や川内商工高のボート部員も30～40人に達し、川面をすべるように進む練習風景は川内川の風物詩になっている。

参考資料7 富田浜スポーツ交流センター（宮崎県）

この施設は、1階にレガッタ艇を収納する漕艇庫と男女のトイレ、シャワー施設を、2階に宿泊施設を設置しています。漕艇庫には町の所有するレガッタ艇を最大20艇まで収納できるほか、マシンによるトレーニングのできるスペースを確保しています。2階の宿泊施設は、最大24名までの宿泊が可能で、研修会等にも利用できます。また、簡単な調理もできるミーティングルームも備えています。



スポーツ交流センターの全景



宿泊施設の玄関

富田浜キャンプ場の炊飯場から出入りします。



艇庫正面



艇庫内

参考資料8 長崎県諫早市に実業団チョープロの艇庫が竣工(長崎県)

長崎県諫早市の本明川に実業団チョープロの新艇庫がこのほど完成し、2016（平成28）年12月19日（月）に竣工式が催されました（主管：チョープロ・ローイングクラブ）。

この艇庫は、液化石油ガス（LPG）販売の県内最大手であるチョープロ（本社：長崎県西彼杵郡長与町）による「チョープロ・ローイングクラブ」の拠点として整備されました。敷地面積551平方m、建て床面積246.9平方mの木造1階建て。温水シャワーとキッチンを備え、シングルスカル16艇、ダブルスカル17艇、フォア15艇の最大48艇を収納することができます。練習水域の本明川は、諫早湾干拓調整池に注ぐ県内唯一の一級河川で、直線3000m以上が確保でき、風波の影響をほとんど受けないのが特長です。



チョープロRCの新艇庫、最大48艇を収納可能

川口局長は「本明川のボート水域化は、諫早湾干拓事業による地域資源を活用を目指した」（長崎県の）『いさかん』魅力発見プロジェクト”の目玉事業です。これからも、諫早市民にボートやカヌーなどを通じて本明川で親しんでもらえるようにできる限りの支援を行いたいです」と挨拶しました。

また荒木社長は「本明川のボート水域としてのポテンシャルの高さからこの場所をチョープロ・ローイングクラブの拠点とすることを決めました。（ボート競技だけではなく）水上スポーツの新たな拠点として、競技選手はもとより、地域の人たちや小中学生に水上スポーツに親しんでもらいたいです。そして、本明川がより親水性の高い場になることを期待しています」と抱負を述べました。



チョープロ・ローイングクラブメンバー

左から北野監督、一瀬選手、斧澤選手、小谷コーチ

今後も段階的に設備拡充を行ない、県内外からの幅広い利用と、将来的には親子ボート教室や市民レガッタの開催、総合型地域スポーツクラブの設立、世界を目指すジュニア選手の発掘・育成が実施されることが期待されます。

参考資料 8 親水スポーツ公園(小松市)

小松市は、小島町地内で計画する親水スポーツ公園の建屋について、9月補正予算案に2700万円を計上するとともに、18年度までの債務負担行為として限度額3億円を設定した。現在、森俊偉+ARCO建築・計画事務所(金沢市)で実施設計を進めている。建屋は、ボートを保管する艇庫棟やトレーニング棟、展望テラスデッキが一体化する施設となる。建設規模は、W造2階建て延べ約1000平方メートルを想定。11月までに設計を完了させて12月の着工、18年12月の完成、ボートなどの移設を経て19年3月のオープンを目指す。

北陸新幹線関連の工事に伴い、梯川沿いにある共同艇庫を前川と梯川の合流地点へ移設する。これに合わせ、ボート・カヌーの競技力向上に資する新たなウォータースポーツ拠点を整備する。建設地は両河川双方へ入水できる好立地。木場潟とも関連性を持たせ、安全で快適な親水空間を形成したい考えだ。緑地も一体的に整備し、霊峰白山や日本海の眺望、バードウォッチングなども楽しめるようにする。

